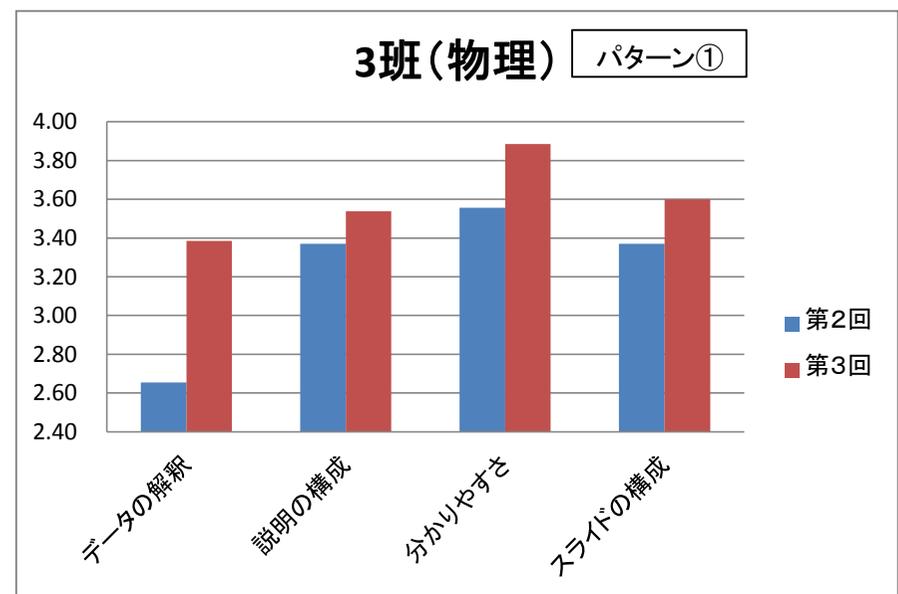
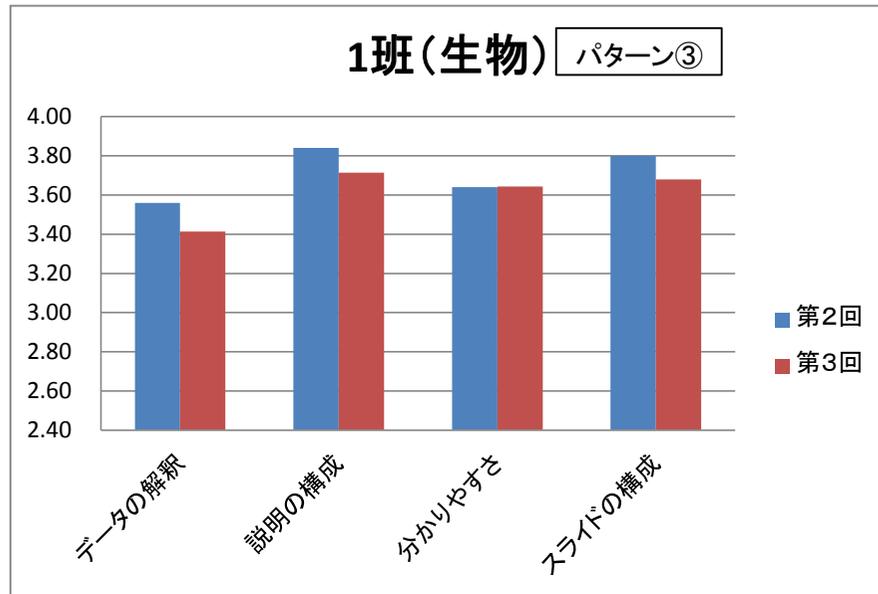
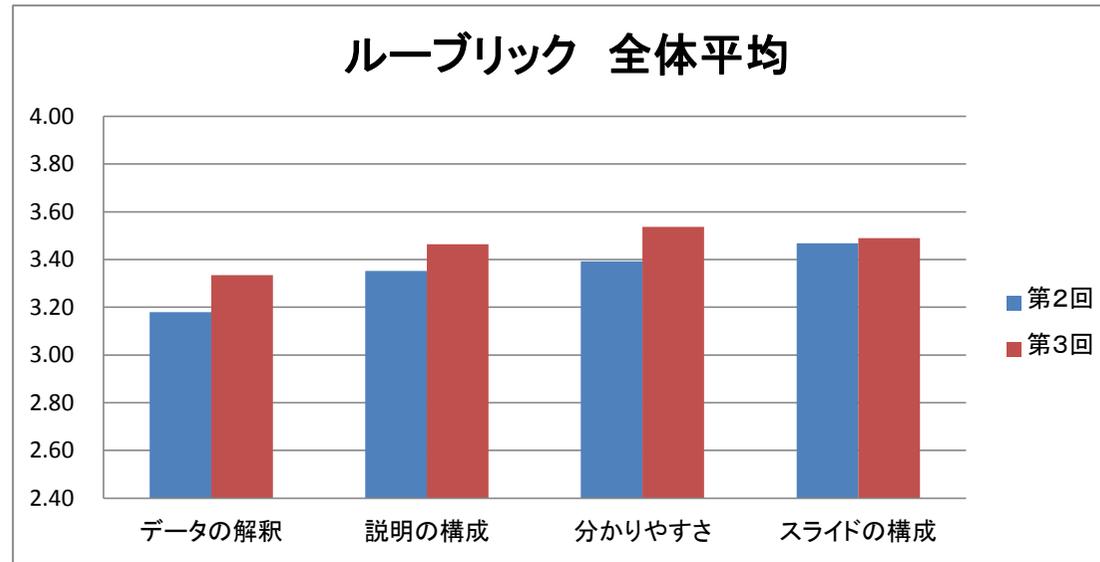
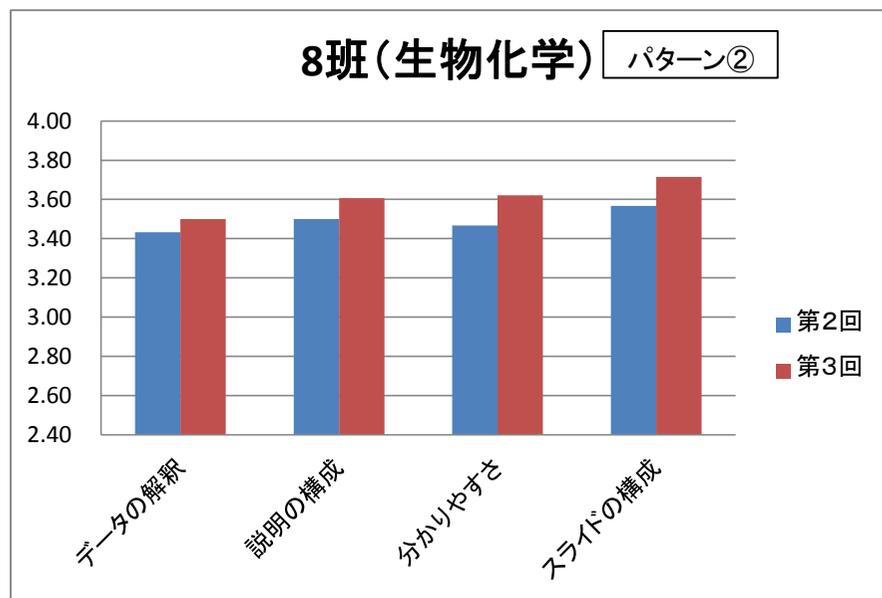
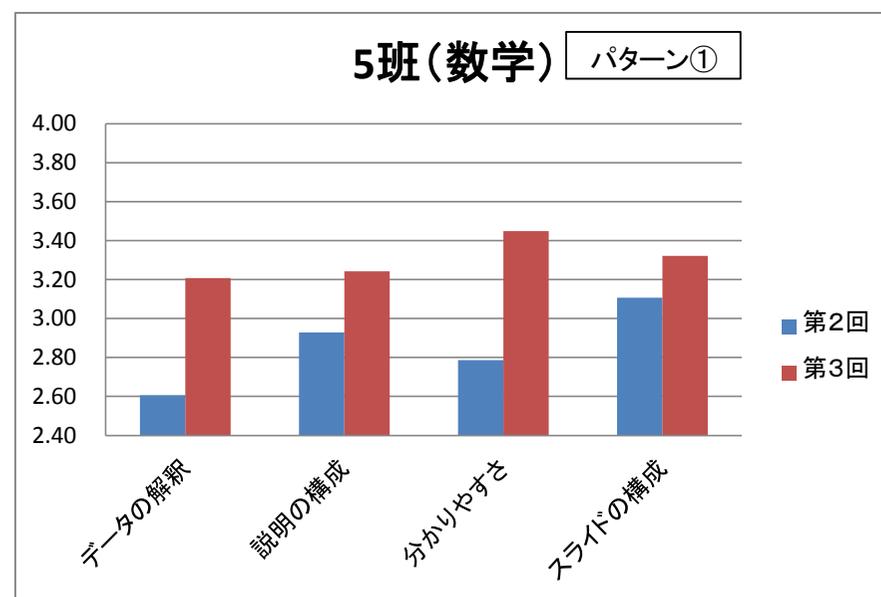
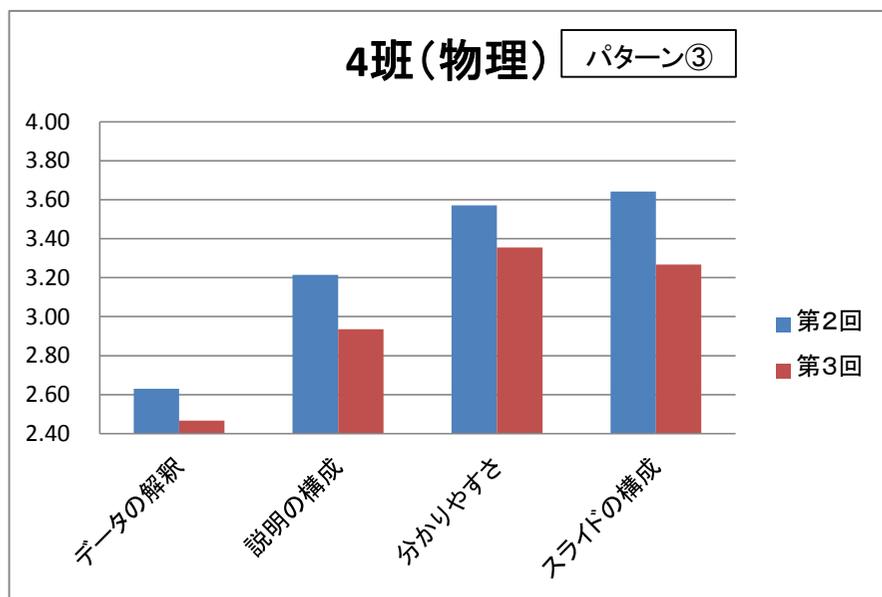


## 2学年SSHコース「理数課題研究」

9月(第2回)、12月(第3回)中間発表の、清陵ルーブリックによる評価とその変化





全体平均では、第2回、第3回を比較すると各項目とも評価が高くなっている。班別々に評価の傾向を見ると、  
 パターン①: 第3回の評価が第2回に比べて大きく上回った  
 パターン②: 全体平均のように各項目の評価がそれぞれ同じように上がった  
 パターン③: 評価が下がった  
 のように大別できる。

- ①は3班, 5班で、特にデータの解釈や分かりやすさで大きく評価が上がっている。実験データを基に分かりやすい発表ができた。
- ②は8班で、着実に研究や発表の力がついてきているのではないと思われる
- ③は1班, 4班だが、これらの班は研究の手法など、データをとる前段階で時間を費やして、本来の研究があまり進んでいなかったためと思われる。発表会では研究についての助言などが出っていたので、今後に期待したい。

